|  |  |
| --- | --- |
| 作成日 | 令和　年　　月　　日 |
| 評価日 | 令和　年　　月　　日 |

**【多文化版】個別の教育支援計〔　　　　　　　高等学校〕**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏名 |  | 性　　別 |  | 国籍 |  |
| フリガナ |  | 生年月日 |  　　　年　　月　　日 |
| 学校での表記 |  | 母　　語使用言語 |  |
| 住所 |  | 連 絡 先 |  |
|  | 続柄 | 氏　　名 | 国　籍 | 本人との言語 | 日本語使用状況・備考 |
| 家族構成 | 父 |  |  |  |  |
| 母 |  |  |  |  |
| 弟 |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 保護者への通知 | □日本語の通知文書で対応可能　　　　　□やさしい日本語で作成した通知が必要　　　□フリガナつきの通知文書が必要　　　　□大切な連絡等は翻訳文書が必要 |
| 保護者面談説明会等 | □日本語で可能　　　　　　　　　　□やさしい日本語で対応するなど配慮が必要□通訳が必要 |
| 来日時期 |  | 滞日予定 |  |
| 将来の進路希望 |  | 在留資格 |  |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年齢 | 学年 | 居住国・市町村 | 就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況 | 担任 | 支援員 | 支援時間 | 備　　考 |
| 4-5 |  |  |  |  |  |  |  |
| 5-6 |  |  |  |  |  |  |  |
| 6-7 |  |  |  |  |  |  |  |
| 7-8 |  |  |  |  |  |  |  |
| 8-9 |  |  |  |  |  |  |  |
| 9-10 |  |  |  |  |  |  |  |
| 10-11 |  |  |  |  |  |  |  |
| 11-12 |  |  |  |  |  |  |  |
| 12-13 |  |  |  |  |  |  |  |
| 13-14 |  |  |  |  |  |  |  |
| 14-15 |  |  |  |  |  |  |  |
| 15-16 |  |  |  |  |  |  |  |
| 16-17 |  |  |  |  |  |  |  |
| 17-18 |  |  |  |  |  |  |  |
| 18-19 |  |  |  |  |  |  |  |
| 19-20 |  |  |  |  |  |  |  |
| 20-21 |  |  |  |  |  |  |  |

 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生活の様子 | 得意なこと好きなこと |  |
| 苦手なこと |  |
| 本人・保護者の学校生活や進路に関する希望 | 本　　人 |  |
| 保護者 |  |
| 長期目標（期間：年）  |  |
| 言語・文化的配慮 | 学校生活上の配慮（１） |
| 日本語及び教科学習上の配慮（２） |
| 母語・母文化尊重に向けた配慮（３） |
| 支援体制関係機関との連携 |  |
| 日本語0プログラムフェーズ | フェーズ | ( 　年　 月) | ( 年 月) | ( 年 月) | ( 年 月) |
| 支援時間 | 週　　　時間 | 週　　　時間 | 週　　　時間 | 週　　　時間 |
| DLA | DLA実施レポート | 実施日（実施者） | 語彙力チェック | 話す | 読む | 書く | 聴く |
| 年　月　日（　　） | 　　% |  |  |  |  |
| 年 月 日（　　） |  % |  |  |  |  |
| 年 月 日（　　） |  % |  |  |  |  |
| 全体評価（ステージ） | 実施日（実施者） | 話す | 読む | 書く | 聴く | JSL評価参照枠＜全体＞ |
| 年　月　日（　　） |  |  |  |  |  |
| 年 月 日（　　） |  |  |  |  |  |
| 年 月 日（　　） |  |  |  |  |  |
| 備　　　　考 |  |
| 作成者 | 担当教員：　　　　　　　　　　　　　　　多文化スーパーバイザー：支援員： |

令和　　年　　月　　日　　保護者氏名

言語・文化的配慮の観点・項目と具体例

観点（１）学校生活上の配慮

　（１）―１　日本語を母語としないことによる学校生活上の困難への配慮

　　　　（１）－１－１　行動のめやすになる表示などのユニバーサルデザイン

　　　　　　　　　　　　　　例）ピクトグラム等　特に災害時の対応　サバイバル日本語の修得支援

　　　　（１）－１－２　児童生徒同士のコミュニケーションをとりやすくする配慮

　　　　　　　　　　　　　　例）翻訳機　電子辞書等

　（１）―２　母文化が異なるための学校生活上の困難への配慮

　　　　（１）－２－１　コミュニケーション上の配慮

例）身体接触　学校文化（清掃、持ち物、部活動、行事、行動規範等）

　例）ものの貸し借り、けんかなどをめぐる文化によるコミュニケーションの違い

1. －２－２　施設・設備面での配慮

　　　　　　　　　　　　　　例）給食　トイレ　宗教（お祈りの場所等）

観点（２）日本語及び教科学習上の配慮

　　（２）－１　学習内容の変更・調整

　　　　（２）－１－１　教育課程の違いへの配慮

　　　　　　　　　　　　　　例）学んだことのない科目や学習内容への配慮

　　　　（２）－１－２　母語・母文化の違いから生じる困難度が高い科目の取り出し指導

　　　　　　　　　　　　　　例）国語科、社会科、家庭科等を別室で指導

　　（２）－２　教材や方法上の配慮

　　　　（２）－２－１　教材の工夫

例）実物・模型・絵・写真・図の活用　学習の流れがわかるワークシートの活用

　　　　（２）－２－２　体験的な活動の導入

　　　　　　　　　　　　　　例）実験やフィールドワーク

　　　　（２）－２－３　デジタルツールの活用

　　　　　　　　　　　　　　例）翻訳機、タブレットの活用

　　　　（２）－２－４　やさしい日本語による説明

　　　　　　　　　　　　　　例）その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する

観点（３）母語・母文化の尊重と多文化共生の取組

　（３）－１　本人の心理面を考慮した母語や母文化の尊重

例）日常的な尊重による、自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮

　（３）－２　周囲との間での互いの文化の理解と多文化共生に向けた取組

　　　　　　　　　　　　　　例）社会科・家庭科・芸術科、総合的な学習の時間、行事等での相互理解の機会

　（３）－３　国による教育制度等の違いに配慮した取組

　　　　　　　　　　　　　　例）日本の高校への進学に向けた母語での情報提供

支援体制　関係機関との連携

校内支援体制　　　ケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる　等

（担任、学年主任・教務主任・養護教諭等の関係職員、管理職、支援員、スーパーバイザー等）

関係機関との連携　所管教育委員会　弘前大学多文化リソースルーム　地域のNPOや国際交流協会等との連携の

　　　　　　　　　具体的なあり方

|  |
| --- |
| 母語・母文化の尊重のために【基本的な考え方】日本の学校では当たり前と思っていても、相手の母文化では当たり前でないことがたくさんあります。次の２つの姿勢を基本として対応していきましょう。1. 日本の学校教育の考え方や指導方針について、理由や背景も含めて丁寧に説明し、理解してもらう。
2. 宗教など相手にとって大切な価値観を尊重し、受け入れる。

 |